

社 報



手摺天端金物

ベランダサポート受金物は、海外での生産が完了しました。さらに改善を行なうために、サポートを自立させる補助金具を考案中です。



試作品で自立,成功しました



ゆでがえる

先日、インターネットで経済情報を検索している時に、妙な見出しが目にとまりました。

それが表題の「ゆでがえる」です。よく調べてみると、この言葉はビジネス教訓としては、良く用いられる言葉のようです。

『熱いお湯にカエルをいきなり入れると、驚いて飛び跳ねて逃げていくのに対し、常温の水にカエルを入れ、少しずつその水を熱しても、カエルは逃げない。徐々に水が熱くなっているのを知覚できないまま、熱湯になったときには逃げる力を失い、そのままゆで上げられてしまうといわれている。』

これが「ゆでがえる」現象と呼ばれています。環境の変化に対応できず大したことは起こらないであろうと、あぐらかいていると、手遅れになるという教訓です。

では、実際に「かえる」をゆでると、どうなるかというと、かえるは早々に脱出して、「ゆでがえる」にはならないとのこと。かえるの名誉に掛けて、「ゆでがえる」は人間が、人を

説くための話としての作り話です。

かえるでさえ、逃げ出すと言うのに、人は何故逃げ出さないのでしょうか。

それは、ゆでられるのは企業であって、人ではないからです。企業が死に至ることはあっても、人の直接の生き死には繋がってません。

企業＝人、ではありませんから、うちの会社に限ってとか、何とかなるだろうとか、中には、会社が無くなっても自分の身の振り方はなんとかなる、とか、楽観的な考えや、逃避的な考えが生まれてくるわけです。

これは、企業＝人、でない以上、当然のことであり、楽観的・逃避的な考えが生まれるの理解できますが、それ以前の話として、企業風土の作り方が間違っていると思います。それは相互依存とも言うべき、慣れあいの状況が当たり前化しているからです。企業という組織の中で、個人自らが旗を掲げて、自己自立的にビジネスを行なうこと、は大変勇気がいることです。

しかし、そうした人がいなければ、企業は成り立たず潰れてしまいます。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

夏は汗で感電しやすい！

夏も最盛期を迎え、熱さも強烈になりつつあります。テレビ・ラジオでも天気予報のたびに、熱中症への注意を呼びかけられています。

気分が悪くなって、熱中症かなと思ったら、すぐに病院で処置をしてもらいましょう。早いうちであれば、病院からすぐに帰れます。少し遅くなると、

入院、手遅れになると死に至ります。

また、この次期に怖いのが感電災害です。汗で電気を通し易い体になっていますので、電動工具の点検、特に延長コードも点検して、アースについても、必ず点検・確認をお願いいたします。

今月も、ご安全に！

2013年 安全成績

■現場災害 H25.1.1-H25.8.3

休業災害	-----	0
不休災害	-----	0
物損災害	-----	0
その他	-----	0
合 計	-----	0

■交通災害 H25.1.1-H25.8.3

人身災害	-----	1
物損災害	-----	1
合 計	-----	2